



2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 10月第 2例会 (2014.10.14) No.3059

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

さて、みなさんご存じのように、去る10月10日には、マララ・ユスフザイさんが史上最年少でノーベル平和賞を受賞しました。一月前の9月16日の会長挨拶で、マララさんのことを取り上げて紹介したばかりでしたが、思いがけず狙いすましたかのような結果となり、大変驚きました。私の会長挨拶も多少はみなさんのお役にたったろうかと喜んでいるところであります。

本日の会長挨拶は、前々回のマララさんについてのお話、前回の識字率についてのお話引き続き、国際ロータリーの六つの重点分野の一つ「基本的教育と識字率向上」について3回目のお話になりますが、ちょっと問題を見る角度を変えて話に入って行きたいと思えます。

私の専門分野は西洋の古代や中世の歴史であります。その中で、比較的日本人によく知られている部分の一つとして、古代エジプト文明があります。先月まで東京都美術館で大規模な展覧会がありました。ご覧になったかたもおられるかと思えます。

古代エジプト文明と言いますと、王様が大きな権力を振り、目も眩むばかりの黄金を大量に掘り出して消費し、三千年間にわたって壮大な建造物を造り続けたことが思い浮かぶと思えます。では、なぜこのようなことができたかという、広大な領域を治め、各地から富を吸い上げると共に、膨大な人々を動員して各種の労働にあたらせたからであります。当然のことながら国家を運営するための各種業務の種類と量は膨大なものになります。とてもすべてを記憶に頼って口伝で指示を与えるだけではたちゆかなくなります。ここに、文書行政が発達する必要性がありました。

古代エジプトは、早くから文字が発達したことで有名ですが、だいたい 400～500 位の文字を使いこなす必要があります。物心がつけば親の仕事を手伝うのがあたりまえの社会にあっては、一般庶民すべてが膨大な文字を憶えて使いこなすという余裕はありませんでした。ですから、最初は文字の知識は王侯貴族や神官だけのものだったようです。しかし、国が大きくなり、業務が複雑になるにつれて、より多くのスタッフが必要になってきます。ここに、一般庶民の子弟にも文字と文書の扱いを教える学校のようなものが生まれ、将来の役人を養成していくことになりました。これを庶民の立場から見ると、それまでなかった立身出世の可能性が生まれたことになります。もちろん、

生計のために少しでも労働力が必要なのが一般的な状態ですから、庶民の子弟の多くは学校に行くことはできませんでした。生活にある程度の余裕をつくりだすことができ、先見の明のある親だけが、多少無理をしても子どもを学校に送り出し、出世させてやりたいと願うことができました。

興味深いのは、そのような学校の教科書として書かれた文章がいくつか残っていることです。これらの教科書は書き写して練習するための教訓書でしたが、その一つに『ドゥアケティの教訓』というものがあります。すこしその文章を眺めてみましょう。(屋形禎亮訳。省略した部分および一部書き改めた部分がある。)

.....

ドゥアケティという名の男が、王都の最も気高きところである官吏の子供たちの行く学校に、息子ペピを入れるため、王都を目指して南に航行したとき、ペピのために行った教訓の始まり。

そこで、ドゥアケティは息子ペピに向かって言った。「私は、鞭打たれたものを見たことがある。おまえは心を書物に向けるべきだ。労働者として連れ去られた者を見るがいい。ごらん、書物に優るものは何もない。(中略)

そこにこのような文句を見つかるだろう。「都で何らかの地位にある書記は、そこで困窮することはない」と。(中略)

私はおまえに、おまえの母親よりも書くことをすきにさせ、その美しさを目の前に浮かび上がらせよう。しかもそれはいかなる職業よりも偉大であり、この世にそれに匹敵するものはないのだ。かれが大きくなり始めたら、まだ子供であるのに、もう人々は挨拶する。彼は用務を果たすために遣わされ、戻ってこないうちからもう大人の服を着ている。

私は、官命を委ねられている彫刻師とか、派遣された場所にいる金細工師とかを見たことがない。だが、炉口で働いている金属細工師は見たことがある。その指は鱗の爪のようであり、魚屑のように悪臭を放っている。(以下、様々な職業について、それぞれいかに苦勞が多いものであるか語られる。木樵、宝石細工師、床屋、葦細工師、陶工、左官、大工、庭師、農夫、蓆編師、矢じりづくり、隊商、履物づくり、洗濯屋、鳥刺、漁師)

ごらん、書記の他には、主人のいない職業はない。それというのも、書記は主人であるからだ。

もしおまえが書くことができるなら、それは私が教えてやっただの職業よりもおまえにとって素晴らしいことなのだ。物持ちである保護者と彼に所属する使用人を見よ。作男はその主人

に向かって「監視しないでください」とは言えないのだ。

私が王都を目指して出かけるのは、おまえへの愛のためなのだ。なぜなら、おまえにとって学校にとっての日々が役にたつからだ。その活動を朝早くから探し求めなさい。私がおまえにそのありさまを教えてやったこれらの労働者たちは急がねばならず、従順でない者もまた、急がせねばならないのだ。(中略)

本箱を捨てる者の名は残らない。だがその性すべてが賢明である者には、何も隠されているものはない。彼はいかなる地位からも辞めさせられることはない。(中略)

彼は役所に赴き、人々は服従する。ごらん、王の家の財産から食料を受け取らない書記はいない。(中略)

おまえに人生の道を与えてくれた父母を敬いなさい。わたしがおまえとその子々孫々に教えてやるこのことをよく見ておきなさい。」 幸福な結びとなった。

.....

さて、いかがでしょうか。この文章は、今から四千年ほど前に書かれたものですが、こどもの頃にだいたい同じ趣旨のことを言われたことがある、あるいは、お子さんに言った経験がある、という方が多いのではないのでしょうか。四千年前のエジプトと現在の日本で本質的なところには変わりがないことに驚かされているのではないかと思います。

「基本的教育と識字率向上」と言うと、こどもの権利として思い浮かべられることが多いかと思えます。しかしこれは同時に、数千年前の古代文明の時代から現代に至るまで、そしてこれからも人類に未来がある限り、親たちにとっても永遠のテーマであり、ただ義務であるばかりでなく、永遠の＜願い＞でもあります。

ノーベル平和賞を受賞したマララさんの陰には、長年にわたっていくつもの学校をつくり続け、教育の必要性を熱く主張し続けてきたお父さんの存在があったことは、9月16日の会長挨拶でご紹介した通りです。その時にも申し上げましたが、彼はパキスタンのスワート地方のロータリアンでありました。この機会にロータリアンとしての誇りと勇気を新たにしていればと思います。

(3) ビジターの紹介、バナー交換

・Mr. Oleg Thuravlen (Calpe RC 会長, Spain)



(4) ロータリーの友紹介 (渡部剛士広報委員)

(5) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員長)

安藤 栄寿君

(6) ニコニコボックス紹介(塚田 正幸委員長)

・仙石正和君私のような最近入会の新参者が、ニコニコボックスに応募してよいか迷いました。山本前会長にご相談いたしましたら、遠慮せず是非にとのことでしたので勇気を

振り絞って応募いたします。先週 10 月 7 日のロータリークラブの例会の夕方、今年のノーベル物理学賞に赤崎、天野、中村の 3 氏が選ばれたとの発表がありました。ノーベル物理学賞といえば、日本初のノーベル賞の湯川博士をはじめとした一般人にはよくわからない深遠な科学の世界か、または最近では国家的な予算を使うビッグプロジェクトが受賞する傾向でしたが、今回は、「明るく省エネルギーの白色光源を可能にした効率的な青色 LED の発明」という、身近なしかも現実的に地球上様々なところで大きく役立っている成果でした。実は 10 年前に、中村氏を新潟大学全学同窓会でお呼びして、講演を市民の方々にも公開しました。満席の聴衆であったことを覚えています。当時、中村氏は、勤務していた会社との特許などの係争中でもあり、彼のエネルギー源でもある、“怒り”を蓄積しているときでした。専門的な多くの人々の中には、開発した主要部分が物理学というより、技術・工学である点、開発が片田舎の中小企業、地方大学である点などから、ノーベル賞の受賞は難しいとの主張もあり、不安に思っていました。地方創成が叫ばれる現在、このノーベル賞は我々新潟も含めた地方にも大きな勇気を与えたと確信いたします。先週 10 月 7 日のロータリークラブで、高橋会長から私の誕生月と言うことで、ワインを頂戴いたしました。その夜、上述の思い出を胸に、ニヤニヤしながら家で一人、ロータリークラブからのワインで祝杯をあげました。一人でありニヤニヤしているので家族は気持ち悪がっていました。今日は、ニコニコです。

・山本 正治君 仙石さんにニコニコボックスの仕方についてお教えしました。これからニコニコボックス申告が増える事を祈ってニコニコします。

・高橋 清文君 ・土曜日のゴルフで久しぶりに80台のスコアが出てニコニコします。・翌日の日曜日、新潟シティマラソン10キロに参加して来ました。今回は塚田牛乳のロゴ入りTシャツを着て参加しましたが、事前に塚田 正幸さんより恥ずかしくない走りをするようにと言われて、プレッシャーもありましたがそこそこのタイムでゴールすることが出来てホッとしてニコニコします。

・ヤンジー(佐藤 紳一君) 新潟シティマラソン枯れジーは42.195Km に行くし姫や魔ダムには負けるし、でも新婚さんには勝利しましたのでニコニコします。

・高橋 秀松君 新潟シティマラソンフル、42.195km無事完走しました。

・長谷川秀彦君 遅くなりましたが、第4回 RC ゴルフコンペハンディに恵まれ準優勝させて頂きました。ニコニコです。このツキを第5回コンペと11/1の野球大会でもフルに活用して頑張ります。

・小田 等君 本日の卓話講師に弊社の南木副社長にお願いし引き受けていただきニコニコです。

・徳永 昭輝君 10月12日香川の高松で第42回日本産婦人科医会学術集会の大会会長として大会旗を引き継いで来ました。来年10月17日18日グランドホテルで大会を開催します。

(7) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

・11月29日 午後1時30分より新潟南ロータリークラブホストによるIMがイタリア軒で開催されます。50%以上の登録依頼が届いておりますので、是非、ご出席くださいます様にお願ひ致します。

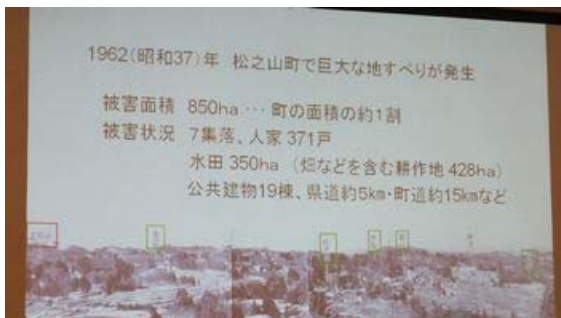
(8) 卓話「親から子へ～地域災害史の伝承」

丸運建設株式会社

代表取締役副社長 南木 均 氏



パワーポイント ①



パワーポイント ②



聞き入る会員

(9) 本日の出席率 72.35 %

(2週間前メーク後 86.32 %)

10月21日の例会予定

卓話「労働力減少 待ったなし！」

両立支援で女性の活躍を引き出そう！

新潟経済社会リサーチセンター

理事 佐藤 孝一氏

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>